



ホエールウォッチング × ブルーカーボン シンポジウム

ホエールウォッチング ブルーカーボン

WW×BCで考える、気候変動。

ホエールウォッチングでクジラの生態を目の当たりにしながら、クジラの炭素循環への貢献を考え、同時にブルーカーボン観測を実感できるブルーカーボンクルーズを通して、海洋生態系の気候変動への貢献を考えるシンポジウム。

講演会

2.22 木

定員
約60名

開会 14:30 (受付14:00~)

閉会 17:00

ウオッチング

2.23 金

定員
約30名

1便 09:30▶12:00 (受付9:00~)

2便 14:00▶16:30 (受付13:30~)

料金

無料 (予約制)

受付場所

那覇港泊ふ頭北岸「シーシャトーII」船内
※15分前までに受付をお願いいたします。

お問い合わせ先

株式会社マリン観光開発 (所在地: 沖縄県那覇市泊3丁目14番地5)
TEL: 098-869-2241 / FAX: 098-862-8841 / 担当: 早川・菅野

【主催】



株式会社
マリン観光開発

【後援】



ジャパブルーエコノミー
技術研究組合(JBE)



一般財団法人
沖縄観光コンベンションビューロー



那覇港管理組合

講演内容

ブルーカーボン



「ブルーカーボンについて」

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 理事長
港湾空港技術研究所 領域長

桑江 朝比呂 Kuwae Tomohiro

国内におけるブルーカーボンの先駆者として、論文、書籍や新聞など紙上掲載多数。専門は、ブルーカーボンに関する科学、政策、実践に加え、沿岸生態系、環境工学、気候変動対策、環境価値の定量化など。

ホエールウォッチング・バイオリギング



「今が来遊最盛期！沖縄にやってくるザトウクジラの生態と世界的な現状」

(一財)沖縄美ら島財団 総合研究所
動物研究室 主任研究員

小林 希実 Kobayashi Nozomi

鯨類の生活史に関する研究、生物の音響行動学的研究を専門とし、主に沖縄周辺に生息するザトウクジラやオキゴンドウなどの海棲哺乳類について、保全や地域貢献を目的とした調査研究を行っている。



「海の見張り番：泳ぎ方から分かってしまうザトウクジラの肥満度」

帝京科学大学 生命環境学部
准教授

青木 かがり Aoki Kagari

マッコウクジラの回遊様式、マイルカ科鯨類のエネルギー消費量、飼育展示個体のストレス評価、バイオリギングデータを用いた海洋教育、能登半島七尾湾のミナミハンドウイルカの来遊状況の研究を行っている。



「ラクして餌獲り、仲間と休憩ノルウェーでのんびり過ごすザトウクジラ」

神戸大学大学院 海事科学研究科
助教

岩田 高志 Iwata Takashi

専門は動物生態学。バイオリギング手法を用いて、海洋高次捕食動物、特に海生哺乳類(アザラシ、オットセイ、クジラなど)の行動生態に関する研究に取り組んでいる。

観光船のミッション

マリン観光開発のブルーカーボンクルーズは、貴重な海水中CO₂のデータを集めながら、サンゴ礁の水中観光を行っています。合わせて海水のCO₂濃度をリアルタイムでお客様にご案内し、ブルーカーボンを実感していただきます。マリン観光開発は観光船による、ブルーカーボンの普及活動を行っています。

ホエールウォッチング (WW) × ブルーカーボン (BC)

ホエールウォッチングと同時に、ブルーカーボンクルーズを体験することでクジラの生態を目の当たりにしながら、気候変動、生物多様性を身近に考える機会を提供します。

運航船舶

HARMONY ハーモニー

- ・高速水中観光船
- ・減揺装置搭載
- ・海中CO₂濃度測定器搭載
- ・リアルタイム濃度プロットシステム搭載

